

■ おわびと訂正 ■

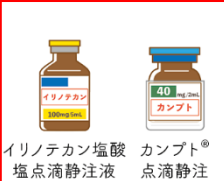
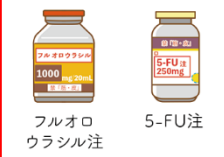
消化器ナーシング 2020 年秋季増刊「臓器別 やさしい消化器がん化学療法・薬物療法」におきまして、下記の誤りがございました。著者ならびに関係者の皆さま、読者の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

p. 182



Chapter 4 レジメン別 副作用ケア・患者指導

16 FOLFIRI (5-FU+LV+CPT-11) 療法

【誤】

使用薬剤の特徴とポイント		*製品は一例です。種類・規格は症例によって異なります。
薬剤	製品例	特徴・注意点
フルオロウラシル 略称 5-FU 投与方法 静注、点滴静注	 イリノテカン塩酸塩点滴静注液 カンプト®点滴静注	<ul style="list-style-type: none"> ● 軽度催吐性リスク ● 消化器がんによく使用される ● 口内炎や下痢などの粘膜傷害が生じやすい ● 急速静注では RNA に、持続静注では DNA に作用する。副作用では急速静注で骨髄抑制が出やすいとの報告がある¹⁾ ● フルオロウラシルの作用を増強させる目的で、ホリナート (= LV. ロイコボリン®など) を併用する
イリノテカン 略称 CPT-11 投与方法 静注	 フルオロウラシル注 5-FU注	<ul style="list-style-type: none"> ● 中等度催吐性リスク ● 炎症性抗がん剤であり、血管外漏出に十分に注意が必要 ● 副作用として下痢が特徴 ● UGT1A1 の遺伝子検査によって副作用の強さが予測できる ● 腸管麻痺、腸閉塞のある患者さんや、大量の腹水・胸水のある患者さんでは、投与禁忌

【正】

使用薬剤の特徴とポイント		*製品は一例です。種類・規格は症例によって異なります。
薬剤	製品例	特徴・注意点
フルオロウラシル 略称 5-FU 投与方法 静注、点滴静注	 フルオロウラシル注 5-FU注	<ul style="list-style-type: none"> ● 軽度催吐性リスク ● 消化器がんによく使用される ● 口内炎や下痢などの粘膜傷害が生じやすい ● 急速静注では RNA に、持続静注では DNA に作用する。副作用では急速静注で骨髄抑制が出やすいとの報告がある¹⁾ ● フルオロウラシルの作用を増強させる目的で、ホリナート (= LV. ロイコボリン®など) を併用する
イリノテカン 略称 CPT-11 投与方法 静注	 イリノテカン塩酸塩点滴静注液 カンプト®点滴静注	<ul style="list-style-type: none"> ● 中等度催吐性リスク ● 炎症性抗がん剤であり、血管外漏出に十分に注意が必要 ● 副作用として下痢が特徴 ● UGT1A1 の遺伝子検査によって副作用の強さが予測できる ● 腸管麻痺、腸閉塞のある患者さんや、大量の腹水・胸水のある患者さんでは、投与禁忌